

解説

人材の確保・育成から成長へ

(株)近藤建設編
(本社：福岡県久留米市)

■ 人事担当

なかち まさとし
中地 正俊
(株)近藤建設
工事部取締役統括部長

■ 若手

こうのえ かずさ
鴻江 一牙
(株)近藤建設
工事部

人事担当の目線

人材確保に関する方針と望む人材について

人材確保に関しての当社の方針としては、新卒者の採用を第一に考えていますが、中途採用も積極的に受け入れています。また中途採用に関しては、土木工事の経験の有無や年齢に特に制限を設けず、やる気のある人材を受け入れています。

望む人材としては、与えられた仕事を遂行するだけでなく、何をやるべきかを自ら考え、実行する積極的な方、また現場を運営していくために発注者や協力業者とのコミュニケーションを図ることができる方を求めています。

Q1：自己紹介を簡潔にお願いします。

私は大学を卒業後、ずっと土木工事に携わってきました。単身赴任が長くなり、転職して以来、現在の会社に勤めています。

当時選んだ理由は前職を退社し地元のハローワークで、経験を生かすことができ、当時は若い社員が多く活力のある社風に魅力を感じ、入社しました。現在は入社して18年、人事担当として3年目になります。

Q2：人材採用はどのような方法で行っていますか？

現在は、高校・大学の新卒者およびハローワークに中途採用の募集をかけています。一時期はアルバイトや派遣の雑誌に掲載も行っていました。

新卒者は筆記試験と面接、中途採用者は、面接により採用を決めています。

Q3：入社されない方はどのような理由で辞退しているのでしょうか？

今までに、面接した方は全員採用しています。特に面接後の辞退者はいません。

Q4：若手人材の育成はどのようにしていますか？

入社後、測量の基本である水準測量および基点測量を会社周辺で実習を行います。

またパソコンでのエクセルやCADの使い方を教えます。同時に現場での安全対策を安全教育DVDで行います。

次に稼働している現場見学および現場担当者の管理の下で、実際の現場に配属し、経験を積んでもらいます。おおむね2年ほどして、近くの現場担当者が補助する形で現場を主導してもらいます。現場に必要な技能講習等は会社負担で取得してもらいます。

また施工管理技士等の国家資格は、取得を奨励し、取得時には合格祝い金および資格手当を支給します。

Q5：ここ5年間の若手人材の入社数と退社数はどのくらいでしょうか？

ここ5年間の入社人数は9名、退職者数は5名です。

Q6：早期退職する若い人の理由は何でしょうか？

若い人は入社後2、3年すると、友人から勤務時間が固定されていて、土日祝日等休みが多く、経験がなくてもそれなりの賃金をもらえるアルバイトや派遣に勤めているという話を聞き、一方、土木業界が、休みや勤務時間が不規則であり、資格もないため多くの給与を望めないことに不満を感じ、転職していくようです。退職前の面談では、今は経験や資格がないため高い給与は払えないが、土木の仕事は経験や資格を積み重ねていくうちに給与も上がり、年を取っても体が元気なうちは働くことができる等の説明はするのですが、なかなか思い留まらせることはできていません。

Q7：今後の若手確保・育成についてどのようにお考えですか？早期離職防止の改善策は？

若手の確保ということでは、ここ数年は、派遣に従事していた人が、派遣では将来、正社員になれないという理由で数名入社しています。最初に入社した人が当社の仕事内容や給与体制を知人に伝え、同じような境遇の人が入社に及んでいます。一度社会を経験したことで腰を落ち着けて仕事に従事しています。

育成については、時間をかけて早急に結果を求めず、育てていくしかありません。当然のことながら、土日祝等の休みや時間外勤務の縮小、昇給や諸手当による年収の上昇で、離職防止を行っています。

上記は当社での対応ですが、土木は社会基盤の整備を進めるためになくはない業種であることをもっと浸透させ、賃金の上昇や休日の確保等を進め、自信と誇りを持つ職業であることを周知していかないと若い人の目がこの業界に向かないのではないのでしょうか。

Q8：育成した若手が活躍するためには、会社（組織）の存続が必須です。御社の将来の見通しはどのようにお考えですか？

当社は主に下水道工事を行っています。下水道処理人口普及率も上がり、今後は新設の下水道工事の受注量の減少が見込まれます。ここ数年、大雨による洪水や土砂崩れによる災害が多く発生しています。今後は雨水排水や河川の整備等まだまだ土木工事は必要な業種と考えています。ただ社員の高齢化も進んでいますので、熟練した社員から若手への技術の継承を進め、会社全体のスキルを高めることにより、より一層の発展ができると考えています。

若手の目線

学生時代の活動や建設業を選んだ理由など

今年の春、工業高校の土木科を卒業しました。土木科を選んだのははっきりとした理由があったわけではないのですが、橋やトンネル、道路などを作る仕事に携わりたいと思ったからだと思います。学生生活を送っていく中で、土木のことをいろいろと学んでいき、なんとなく現場監督員になりたいと考えるようになりました。学業としては授業で実習があり、レベルやトランシットの測定の勉強やCAD図面作成などがありました。特に印象に残っているのが、実際の工事現場の見学会に参加したことです。ダムの工事現場と朝倉豪雨（平成29年7月九州北部豪雨）災害で被災した乙石川の災害復旧工事の現場でした。国土交通省職員からいろいろと説明を受け、このような仕事があるのだと初めて知りました。自分の想像では、1つの現場に1つの業者というイメージを持っていましたが、実際は元請業者、下請業者と何社も同じ現場で作業をしているということを知って驚いたのを覚えています。土木の仕事が社会や人の役に立つ仕事なのだと感じました。このような経験もあり、建設業で働いてみたいと思い就職しました。